

令和6年度 第5回 豊田市保見地域会議 会議録

開催日時	令和6年8月28日（水）	開会	閉会
		午後7時	午後7時50分
会 場	保見交流館1階 多目的ホール		
出 席 者	地域会議委員：14人		
	会長：山本 昭治 副会長：鈴木 薫		
	委員：大田 浩子 柏本 福勝 加納 和茂 加納 賢次		
	杉野 秋吉 鈴木 康之 田口 浩之 林 義勝		
	三宅 完治 村瀬 一也 山田 貴啓 吉村 迅翔		
欠 席 者	0名		
オ ブ ザ ー バ ー	保見地域会議 前会長 湯浅進也 前副会長 田中治 福岡靖純市議会議員		
傍 聴 者	1名		
事 務 局	豊田市 太田市長 地域振興部：能見自治推進室長 猿投支所：広瀬支所長、梅村副支所長、築山担当長、宮石担当長		
	1. 豊田市民の誓い（唱和） 2. 会長あいさつ 3. 「まちぐるみ 気づき つながる健康づくり」の提言について 4. 情報共有・事務連絡		

■議事（要約）

市長あいさつ

- ・昨日から東京へ国への陳情に行ってきた。何かあればまた教えてほしい。
- ・今年のおいでんまつりでは、保見地区から2団体が優秀な賞を受賞している。どの地域にも言えることだが、課題の掘り起こしは熱心にやるけれど、感動を共有する機会があまりないと感じている。感動を共有するような取組を期待する。

3 「まちぐるみ 気づき つながる健康づくり」の提言について

- ・会長が市長に提言書を提出し、その後、記念撮影を行った。
- ・会長が提言内容について説明し、意見交換を行う。

<意見交換>

委員：保見の地域資源を生かした健康づくりに取り組みたいと思っている。市には大学や施設との調整や地域との橋渡しをお願いしたい。

市長：中京大学の中野先生がこどもの体力低下について問題意識を持って研究している。中野先生に限らず、大学と地域のニーズが一致すれば共働事業が成立すると思う。中京大学では他にも学生から、小中学校でのスポーツ指導、カリキュラムづくりなど学生から提案がある。教員志望の学生もいるので、大学生の学びの場として実現できるといいと思う。

委員：地域会議で事業のアイデア出しをしているなかで、好事例を探してみたが、なかなか良い事例がなかった。市長の考える成功事例についてお聞きしたい。

市長：提言書にあったが、「日頃運動する習慣なし」が他地域より多いのは健康でないことに直結しない。皆さんは「ずっと元気プロジェクト」はご存じか。健康寿命を延ばすことを目的として、趣味、コミュニケーションまで幅広く捉えている。保見地域は、農のある暮らし、家庭菜園をやっている人が多いと思う。日常的な取組で生きがいづくりが出来る環境にある。提言内容について、健康寿命を延ばすと捉えたら、もっといろんなことが考えられるのではないかな。

- ・課題だから、毎日決まった運動をしないとイケないなんて考えなくていいのではないかな。課題、問題をとりあげるのではなく、地域の人たちは、こんなに色々なことをしていて、ずっと健康でいられる。お互いの取組を紹介しあうということもあっていいのでは。保見団地の外国籍の方の生活パターンに健康づくりのヒントがあるかもしれない。印象として、歌って踊るという行為はとてもいい。これは健康寿命を延ばすということだと思う。

委員：個々の生きがいがあれば、健康なんだろうと思う。生きがいづくり、感動することが大事。近所に健康器具、健康遊具があればいいなと思うがどうか。

市長：健康遊具の設置場所を決めれば、遠い人近い人が必ずできる。地域で場所の合意ができるのであれば、やればいいと思う。

委員：市長の言う通り、団地の外国籍の方は本当に元気。出産後、すぐに踊ったりする。自分の団体も連携できることがあると思う。11月のイベントでは、交流できるといいと思っている。

市長：自分の任期中に外国人市民会議を作った。あるとき、日本人と外国人と対峙がおかしいのではと気づき、地球会議と命名し取組はじめた。コミュニティの代表や関係団体との調整も時間はかかると思うが、丁寧にやらないとイケないと思う。

委員：東保見小学校の学校開放について、地域の方がグラウンドを使いたいけれど、鍵の管理をしてくれる方がいない状況がある。回覧などで求人しているが担い手がないようで体育施設を使えない状況が続いている。解決できないかと思う。

市長：確認する。コロナの影響か。少し無理をしてでも元に戻していく必要があるかもしれない。

以下、提言以外での意見交換（市長の求めに応じて）

委員：有事の時の避難場所について、保見地区で言うと小中学校、田舂スポセン、中京大学、愛工大も加えて頂くことは可能か。

市長：可能だと思う。自分の任期中に近隣6大学とは包括連携協定を結び様々な連携をしている。豊田市の避難所開設の姿勢として、避難所は日中に開設し、安全に帰宅できるよう日中に閉鎖するようにしている。台風はある程度予測できるので、

早めに判断して行動してほしい。提言にある健康づくりと同じで、災害対応も自助が前提ではあるが、自分だけではできないことがある。「近所」を「近助」とも言うが、コミュニティでの情報共有や確認を都度していくことが必要だと思う。

6 情報共有・事務連絡

(次回の予定)

日 時：令和6年9月25日（水）午後7時から

場 所：保見交流館1階多目的ホール

内 容：令和7年度以降の地域課題解決事業について